

2-6 改善提案活動

社員の様々な改善提案や実績等を集約して、提案内容の共有化を図ると共に、貢献度の高い提案に対して表彰を行なっています。改善提案は、作業安全や設備改良、業務改善等、様々な分野に及びますが、輸送の安全に関する下記のような提案も数多くあります。また、優秀な案件は、社内だけでなくグループ会社全体への共有化と啓発を兼ねて、「グループアワード」と称して、阪急阪神グループ全体でも表彰しています。2008年度の事例を一部ご紹介します。

1 過去の事故事例に学ぶ「こんな時どうする？」バーチャル体験

ベテランの乗務員は、経験豊富で異常時に対する的確な判断や対処が出来ます。これらは業務の中で経験した数々の事故やミスによって学んできた知識です。

この知識を経験の浅い係員に効果的に伝えるため、その状況を映像で再現し、疑似体験させる教育ソフトを考案しました。一方的な教育だけでなく「考える」要素を付加する事により、ベテランが身を持って経験した貴重な財産を、確実に継承できるように研究して開発しました。宝塚線の監督者と乗務員が協力して作成し、社内の選考会を経て、日本鉄道運転協会においても局長賞をいただきました。



2 西宮車庫列車概観検査装置更新

列車外観検査装置とは、出入庫する列車をテレビカメラで様々な方向から自動的に撮影し、録画した映像を再生して列車の外観検査を行う装置です。

今回、性能向上の著しい工業用パソコン等の最新技術を幅広く採用し、ネットワークで連動させることにより、より高機能な装置に改善できました。特にコストダウンと故障時のバックアップシステム、そして、画像の確認と操作性が格段に向上し、より精密な検査が可能となりました。

